

学則の変更の趣旨等を記載した書類

本学は、“地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律”第13条第1項第1号により、2022年3月に閉校となった上智社会福祉専門学校介護福祉士の入学定員40人をもって、上智大学神学部神学科及び理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科及び情報理工学科の収容定員変更の認可申請をする。

なお、“地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律施行令”第4条第1項に基づく文部科学大臣への届出は、実施済である。(資料1、2参照)

学則の変更の趣旨等については、神学部と理工学部それぞれ分けて次のとおり記載する。

1. 神学部

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

神学部神学科は、2023年（令和5年）4月から表1とおりの収容定員を変更する。

表1 神学部神学科の収容定員変更状況

学科	現行		変更後		定員増加数	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
神学科	40	176※	50	216※	10	40
計	40	176※	50	216※	10	40

※編入学の収容定員16名を含む

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

近年の神学部入学志願者の動向を、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」で確認すると、安定的に1,000人以上の志願者を集めていたが、経済不況や少子化といった社会情勢と新型コロナウイルス感染症の影響があるのか令和3年度の志願者数は落ち込んでいる。（表2参照）

表2 神学部の入学者及び志願者の動向

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
集計学部数	6	6	6	6	6
入学定員(人)	180	183	183	181	181
志願者数(人)	1,101	1,052	1,298	1,030	728
入学者数(人)	186	165	181	177	164
入学定員充足率(%)	103.3%	90.2%	98.9%	97.8%	90.6%

(出典) 日本私立学校振興・共済事業団
私立大学・短期大学等入学志願動向

一方、本学、神学部神学科の1年次入学定員は40名であるが、次の表3「入学試験状況(神学部神学科 過去5年)」にあるように、例年一定以上の志願者数と入学者数を確保している。

表3 入学試験状況(神学部神学科 過去5年)

入学年度	入学定員 (A)	志願者数 (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数
2018年度	40	137	3.42	41
2019年度	40	168	4.20	40
2020年度	40	161	4.02	42
2021年度	40	135	3.37	41
2022年度	40	160	4.00	42

※志願者数は全入試種別の志願者数から集計

本学は、2021年度入試から入試制度改革を行い、一般入試においてはより理解力、考察力を求めるために①事前に受験したTEAP、または、TEAP CBTのスコアと、上智大学独自の教科・科目試験の結果で、総合的に合否判定を行う「TEAPスコア利用型(全学統一日程入試)」、②大学入学共通テスト(任意提出した外国語外部検定試験結果含む)と上智大学独自の学部学科試験結果で、総合的に合否判定を行う「学部学科試験・共通テスト併用型」、③大学入学共通テストのみで合否判定を行う「共通テスト利用型」の3方式に変更した。

入試制度改革により、全学的には受験生数が減少しているが、神学科は2022年度に志願者数が増員となった。

神学は、2000年にわたるキリスト教の歴史の中で発展し、さまざまな学問の根底にある真理を追究する学問として、キリスト教世界の文化や社会に大きな影響を及ぼしてきた。また、神学は、聖書とキリスト教の伝統を体系的に学び、それらが神についてまた人間と

世界について何を教えているかを研究し、その知識を基に人間の生きる意味、世界の存在の意味、歴史の意味について思索することにある。

現代世界はグローバル化するとともに価値の多様化、相対化が進み、科学技術の進歩の一方で精神を病む人間や社会を憂う状況の中であり、人間性そのものとその根源にある文化、宗教に関する深い省察によって現代にふさわしい倫理的価値を再建することが課題となっている。また、世界は、限りない発展の可能性と同時に環境破壊や経済格差の拡大、激化する民族抗争、背景にある宗教などの深刻な問題に直面させられている。この現状に対し、カトリックの宗教的価値観を基底とする本学科は、2000年におよぶキリスト教の伝統と歴史的経験の上に現代の課題に取り組む使命を担っている。

本学の神学部神学科は日本で唯一のカトリック神学科であるが、人間と社会の真のあるべき姿を問い、堅固な価値観を養い、その実現の方策を探ることを通して、国際社会に寄与する、つまり現代社会のために貢献できる人材の養成を目指していきたい。さらに、安定的に存在する志願者の要求に応えるための入学定員の増加をしたい。このことによって、キリスト教的価値観に裏付けられた倫理的判断力により人間の尊厳を追求できる人材を養成することにより、本学、本学科としての責務を果していきたい。

以上のような状況を高等教育機関の使命という普遍的観点から考慮するに、本学神学部神学科は社会により広く教育を受ける機会を提供し、社会への人的貢献を拡充することが現況の社会的要請に応えるものであると考えており、入学定員が40名から50名に増員となっても選抜に問題のない志願者数を確保できると判断している。

カリキュラムの維持によって現在の教育効果を維持し、国内外の学界、教育界や実業界における本学の影響力を高め、本学の建学理念を実践していくためにも、有為の人材となる学生数を今後も継続的に一定数確保していく必要がある。

次の表4「神学部神学科の就職状況」に示されるとおり、卒業生の多くは一般企業へ就職し就職先業種は多様に亘っており、広く社会全般にその教育力が認知・評価されていることが見受けられる。

表4 神学部神学科の就職状況

決定進路区分名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	計
就職 (A)	32	30	37	26	26	151
進学 (B)	10	10	12	12	6	50
その他(就職・進学以外) (C)	5	4	5	13	9	36
就職活動継続 (D)	0	1	2	3	2	8
就職率 A/A+D	100.0%	96.8%	94.9%	89.7%	92.9%	95.0%

こうした状況に鑑み、入学定員を増加することによって社会の発展に寄与するより多くの人材を輩出していくことは、本学神学部神学科に課された社会的使命の一つであると認識している。さらに一般企業のみならず、大学院を有し、国内外の学界・教育界に多数の人材を供給している学部・研究科として、神学分野における研究者・教育者を養成するためにも、一定数の学生の母集団を確保する必要がある。

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

神学部神学科の教育課程は次のような特色を有している。

神学部神学科は、日本で唯一のカトリック神学を学ぶ学科である。カトリック教会の長い伝統を受け継いだ世界のカトリック大学のネットワークの中で、キリスト教を本格的に学ぶことができる。キリスト教の深い理解を身につけ、さまざまな分野で活躍する人材を養成することを目指している。

神学は、聖書、教義、倫理などの多岐な分野からなる総合的な学問である。哲学や歴史学などのさまざまな方法論をフルに活用して、キリスト教に学問的なアプローチで取り組むが、神学科ではキリスト教の教義を学ぶばかりでなく、キリスト教の美術や文学などの文化的なものや現社会的諸問題にキリスト教的視点から取り組む。国際政治から文化まで、キリスト教に係わる分野は多岐にわたるため、キリスト教の知識をもつことは大きな助けとなる。

カリキュラムは、1年次に「旧約聖書概説」、「新約聖書概説」により旧約聖書と新約聖書を、「キリスト教学入門」によりキリスト教の教義の基礎を、2年次に「キリスト教と哲学」と「キリスト教と歴史」でキリスト教と哲学と歴史の関係を学び、1、2年生で神学科共通の基礎科目を学ぶ。3年次からは、神学系（カトリック神学を専門的に学び神学を専門的に深めたい学生）、キリスト教倫理系（人間のいのちや社会正義などの分野をキリスト教的価値観に立脚して学び、倫理問題への取り組みをとおしてキリスト教的教養を身につけたい学生）、キリスト教文化系（思想・芸術の分野で、キリスト教文化の歴史的歩みと現代的意味を学び、キリスト教文化の学びをとおして、キリスト教的教養を身につけたい学生）、宣教実務系（自己のキリスト教信仰を客観的・批判的に顧み、ミッションスクールや教会での奉仕を目ざしたい学生）の履修区分を参考に履修し、自らの研究課題を見出して研究内容をより深める。

神学系では哲学・教義学に係る科目、キリスト教倫理系では社会倫理に係る科目、キリスト教文化系では思想、芸術に係る科目、及び宣教実務系では聖書に係る科目が多く設けられている。また、選択科目として、ラテン語、ギリシア語、ヒブル語が語学科目として

開設されているが、「キリスト教ラテン語」、「聖書ギリシア語」、「聖書ヒブル語」などの聖書言語の履修が勧められている。

このように、神学部神学科は、神学を中核とし、キリスト教倫理並びにキリスト教文化を包括するカトリシズムをその歴史の変遷を踏まえて教育し、キリスト教的価値観の創造的發展に寄与することを目的として、少人数制による演習、卒業論文指導など、個性を尊重し個々の能力を引き出す授業科目と教育指導を大切にしている。

また、カトリック教会と国際社会に貢献するために、キリスト教的価値観に基づく教養を備えた地球市民の人材や聖職者・教職者の養成を目指しているために、積極的に教育課程の少人数化を図りきめ細かな教育の実践を押し進めており、そのカリキュラムを維持するための教員組織は下記「教員組織の変更内容」で述べているように十分備えている。収容定員の変更を行っても現状の教育課程で十分に対応可能であると考えている。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

神学部神学科は、上記「教育課程の変更内容」で述べたとおり、少人数制によるきめ細やかな教育により学生一人ひとりを大切にする教育を実践することを目指し、教育研究が行われている。神学部神学科では、必修科目として4年次に「卒業論文」が課されているが、「卒業論文」は学生にとって大学における履修上の総決算の意味があり、神学科では特にこれに全力を傾注することによって、自分の修めてきた学問の意味を自覚的に把握することが期待されている。各自がその研究テーマに応じて専任教員の指導・助言のもと、論文を完成させることになる。各教員が卒業論文を指導する学生数については、収容定員変更後も4人程度に抑えられ低水準にあると考えている。

収容定員増加後においても、そのカリキュラムを維持するための教員組織は下記「教員組織の変更内容」で述べているように十分備えているため、教育方法や履修指導方法の変更は行わない。

(ウ) 教員組織の変更内容

神学部神学科の教員数は、表5のとおりである。

表5 神学部神学科教員数

学科名	教授	准教授	講師	助教	合計
神学	9	2	1	2	14

神学部神学科の教員数は、14名である。

収容定員変更後における大学設置基準で定められる教員数は 8 名（教授数 4 名）となるが、収容定員変更後においても大学設置基準を満たす教員数を神学部神学科は有している。

神学科の教員一人あたりの学生数（S/T 比）については、現行の入学定員と変更後の入学定員で比較すると、12.6 名から 15.4 名になる。

学生数は増加するが、定員変更の影響はわずかなものであり、既存の教員組織で十分に対応できるものとする。

（エ）施設・設備の変更内容

①校地、運動場について

上智大学は、東京都千代田区に四谷キャンパス、練馬区に石神井キャンパス、新宿区に目白聖母キャンパス、神奈川県秦野市に秦野キャンパス、大阪府大阪市に大阪サテライトキャンパスを構えている。

本学は、新たな教育プログラムに対応するための教育研究施設とするために、本学四谷キャンパスに隣接する土地 320.29 m²を 2016 年 3 月に取得した。また、2019 年 1 月にも隣地 783.00 m²を取得した。この結果、上智大学の校舎等敷地 206,794.58 m²、運動場敷地 106,839.87 m²（上智大学短期大学部との共用面積 82,867.00 m²を含む）の合計 313,634.45 m²となり、大学設置基準第 37 条の規定により算出する（収容定員上の学生 1 人あたり 10 m²）校地面積 113,800 m²を十分に満たしている。

②校舎について

上智大学は、建設工事における環境負荷が少なく CO2 排出量の削減と森林資源の循環利用推進の観点から木造建築を採用した 15 号館（478.35 m²）を 2022 年 4 月に四谷キャンパスに竣工した。15 号館 1 階には、学生のアメニティースペースとしてのカフェを開設し、2 階及び 3 階に教室を整備した。

15 号館の竣工より、本学の校舎面積合計は 177,211.04 m²となったが、大学設置基準第 37 条の 2 別表第 3 により算出される収容定員増加後の基準校舎面積 66,738 m²に対し約 2.65 倍の面積を持ち、十分な校舎面積を保有している。

③図書館について

図書館は、面積 20,709 m²、閲覧座席数 1,951 席、収容可能冊数 2,022,000 冊の規模となっている。蔵書については 2022 年 5 月現在で、図書 1,126,128 冊、学術雑誌 11,277 種類、電子ジャーナル 49,437 種、視聴覚資料 18,472 点となっている。

設備としては、グループで学習するためのグループ学習室が図書館の地下 1 階に 3 部屋

設けられている。定員は10名で最大2時間までの利用ができる。各部屋に設置してあるホワイトボードは電子黒板の機能を有し、パソコンを持ち込めばUSBに入ったデータを写し出し、専用の電子ペンで書込み・保存も可能となっている。

ラーニングcommonsも用意されている。ラーニングcommonsは、従来の講義を受けて知識を得る「受身」型から「問題解決」型へと学習方法の変化に合わせた環境を整えている。図書・雑誌ばかりでなくデータベース・電子ジャーナル等の学術資源も活用して、多目的学習スペースとして利用することができる。ラーニングcommonsは、グループワークエリアとプレゼンテーションエリアに分かれているが、グループワークエリアにはグループ学習席が40席ある。ラーニングcommons内の机・椅子は可動式で人数に合わせて自由に組み合わせ使用できる。プレゼンテーションエリアでは、ノートパソコン・スクリーンを利用してプレゼンテーション準備、ゼミ発表のリハーサル等が可能となっている。また、ラーニングcommonsには、学習支援席が設けられている。学習支援席では、大学院生スタッフに学習に関するさまざまな質問をすることができ、質問例としてはレポート・論文の書き方、情報収集の方法、プレゼンテーションの方法等の学習に関することの相談が可能である。

④大学として設備について

上智大学では、2020年度から2021年度にかけて四谷キャンパスで使用する電気を再生エネルギー100%の電気に変更した。また、上智大学の設置者である学校法人上智学院は、2021年度に四谷キャンパス及び目白聖母キャンパスの都市ガスをカーボンニュートラルLNGに変更している。これにより、一部の施設を除き電気の使用に伴う二酸化炭素の排出を無くすことができ、都市ガスの使用に伴い排出される二酸化炭素の大幅な削減に寄与している。このように環境に配慮した、サステナブルなキャンパスづくりを大学としての重要課題と考えている。

学生にとってもこのサステナビリティの観点を意識してもらうよう、2021年度からウォーターサーバーの設置数を増やし、学生が所有する水筒を活用することで、廃プラスチックの動きに繋げる取り組みを進めている。

また、サステナビリティ推進においてはダイバーシティ推進の考え方も特に重要となるが、現在バリアフリー化の推進や学内サインの統一、オールジェンダートイレの設置などをキャンパス内で進め、障がいの有無や性差別のないキャンパス環境づくりに向けて、設備面の更新につとめている。

2. 理工学部

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科は、令和5年（2023年）4月から表6のとおり収容定員を変更する。

表6 理工学部の収容定員変更状況

学科	現行		変更後		定員増加数	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
物質生命理工学科	125	500	137	548	12	48
機能創造理工学科	125	500	137	548	12	48
情報理工学科	130	520	136	544	6	24
計	380	1,520	410	1,640	30	120

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

近年の理工学部入学志願者の動向を、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」で確認すると、例年志願者数が増加していたが、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響があるのか減員しているが、過去5年間の志願倍率は約14倍を超過している。（表7参照）

表7 理工学部の入学者及び志願者の動向

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
集計学部数	30	30	29	30	29
入学定員(人)	18,545	18,681	18,441	18,581	18,040
志願者数(人)	258,262	265,201	275,555	292,296	253,201
入学者数(人)	19,333	18,570	18,318	18,496	18,055
入学定員充足率(%)	104.2%	99.4%	99.3%	99.5%	100.1%

（出典）日本私立学校振興・共済事業団
私立大学・短期大学等入学志願動向

理工学部の1年次入学定員は、物質生命理工学科・機能創造理工学科・情報理工学科の3学科を合わせて380名であるが、次の表8、9、10「入学試験状況（理工学部物質生命理工学科、機能創造理工学科、情報理工学科 過去5年）」にあるように、例年一定以上の志願者数と入学者数を確保している。

表8 入学試験状況（理工学部物質生命理工学科）

入学年度	入学定員 (A)	志願者数 (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数
2018年度	125	1,530	12.24	118
2019年度	125	1,236	9.88	124
2020年度	125	1,225	9.80	122
2021年度	125	1,381	11.04	121
2022年度	125	1,296	10.36	118

※志願者数は全入試種別の志願者数から集計

表9 入学試験状況（理工学部機能創造理工理工学科）

入学年度	入学定員 (A)	志願者数 (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数
2018年度	125	1,498	11.98	121
2019年度	125	1,242	9.94	121
2020年度	125	1,132	9.06	121
2021年度	125	1,369	10.95	120
2022年度	125	1,203	9.62	131

※志願者数は全入試種別の志願者数から集計

表10 入学試験状況（理工学部情報理工学科）

入学年度	入学定員 (A)	志願者数 (B)	志願倍率 (B/A)	入学者数
2018年度	130	1,791	13.78	131
2019年度	130	1,571	12.08	134
2020年度	130	1,380	10.62	131
2021年度	130	1,819	13.99	131
2022年度	130	1,677	12.90	135

※志願者数は全入試種別の志願者数から集計

急速な変貌を遂げている科学技術、多様化する社会、それらに対応する力こそ本学理工学部が提唱する「複合知」であり、専門を超えていく能力のことである。自分の関心ある分野に対して確固たる専門性をもち、それを足場に専門を超えていくことで、将来研究者や技術者になったとき、関連する分野を連結させていく能力が開花する。

「複合知」は、諸問題の解決に資するため、文理融合教育によって異分野を客観的に見

ることのできる幅広い教養とも言える。知識基盤型社会が到来している中で、活力ある社会が持続的に発展して行くためには、優れた科学技術者が求められている。

本学理工学部は、専門分野とともに「複合知」を習得し、地球規模で起きている環境破壊などのグローバルな視点から問題の多様化した現代社会が抱える諸問題を解決するために、人間の尊厳、環境問題、情報技術などの幅広い視野から「科学・技術の発展」に貢献できる人材を養成することを目指している。

また、理工学部の各学科は、次の目的を有している。

物質生命理工学科は、物理学、化学、生物学、環境学、材料科学などの学問分野を融合的に学び、原子・分子から高分子、生命現象にわたる物質の基礎を理解し、応用・展開する能力を養い、新しい概念の物質や技術の創成に貢献するために、新しい物質観と生命観を備え、かつ、地球環境と科学技術の永続的な融和を担える人材を輩出することを目指している。

機能創造理工学科は、物理学、数学への深い理解を基礎に、材料、デバイス、エネルギー、機械、システムに関する知識を習得することによって、まったく新しい価値や機能を生み出す能力を養い、科学技術上の諸問題の解決に貢献するために、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを応用・発展させることのできる人材を輩出することを目指している。

情報理工学科は、情報科学、電子情報学、数学、生物学を基礎とし、人間・通信・社会・数理の情報分野を学び、文理の学際的視点も併せもち、情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養い、人間や社会に役立つ情報の体系やシステム、新しい情報技術の創成に貢献するために、人間、社会が築いてきた情報、知識、概念を理解・蓄積し、これらを情報技術の活用でより発展させることのできる人材を輩出することを目指している。

理工学部は2008年に5学科（機械工学科、電気・電子工学科、数学科、物理学科、化学科）から、現在の3学科に再編した。これは、専門を究めつつ、専門を超えて関連する分野を自在に連結させ、統合できる感性・知識・能力を備え、さらには、理系と文系といった垣根を越えて自在に思考し、現代社会が問いかける複雑な課題の解決に貢献できる能力「複合知」を修得した人材を輩出しようとの考えによるものである。

理工学部各学科の5年間の志願者倍率平均は、いずれの学科も約10倍を超えており、これは受験生からの本学理工学部へのニーズの現れと捉えられる。各学科は、今後も安定的な志願者を確保できることが予測され、入学定員を物質生命理工学科12名、機能創造理工学科12名、情報理工学科6名の合計30名増加しても、入学者を選抜するのに問題ない志願者数を今後も確保できると考えている。

また、卒業生の進路状況も安定的で、学部の特性から進学者が約5割を占めるが、就職

先としては製造業、情報・調査サービス業などを中心に様々な業種へと就職しており（「2021年度 卒業・修了者進路状況報告書」（資料3）参照）、産業界からのニーズも高い。受験者層からの旺盛な進学需要および産業界からの社会的要請を考慮し、入学定員を現員より30名増加することを決定した。（表11～13参照）

表11 理工学部物質生命理工学科の就職状況

決定進路区分名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
就職 (A)	66	56	57	65	58	302
進学 (B)	74	55	61	54	62	306
その他(就職・進学以外) (C)	2	1	2	3	6	14
就職活動継続 (D)	2	1	1	0	1	5
就職率 A/A+D	97.1%	98.2%	98.3%	100.0%	98.3%	98.4%

表12 理工学部機能創造理工学科の就職状況

決定進路区分名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
就職 (A)	40	54	64	59	41	258
進学 (B)	74	79	64	71	78	366
その他(就職・進学以外) (C)	0	1	1	1	4	7
就職活動継続 (D)	3	1	2	3	2	11
就職率 A/A+D	93.0%	98.2%	97.0%	95.2%	95.3%	95.9%

表13 理工学部情報理工学科の就職状況

決定進路区分名	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	合計
就職 (A)	71	96	103	79	99	448
進学 (B)	49	31	43	46	37	206
その他(就職・進学以外) (C)	4	1	0	4	3	12
就職活動継続 (D)	0	0	3	5	3	11
就職率 A/A+D	100.0%	100.0%	97.2%	94.0%	97.1%	97.6%

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

理工学部の各学科の教育課程はそれぞれ次のような特色を有している。

物質生命理工学科は、自然界にある「物質と生命」を探究（=Science）し、新物質の創成、資源の循環利用、新しい物性・機能の構築を目指す。ここでは物理学、化学、生物学、環境科学、材料工学など既存の学問分野を包括的・複合的に融合して学ぶ。原子、分子から高分子・生命現象におよぶ物質の基礎を学び、そのうえで「物質のナノテクノロジー」「環境と姓名の調和」「高機能材料の創成」をキーテーマとするカリキュラムを設け、理

工融合による「複合知」を目指した専門教育を行う。自然と融合した新しい物質観と生命観を身につけ、産業の高度化や環境保全に役立て、さらに科学技術英語教育により国際競争力がある科学者、技術者を輩出する。

学科科目としては、物理学、化学、生物学、環境科学などの専門性を重視しつつ、それらを融合させた「複合知」の習得を目指す。1年次に基礎科目を修得し、2年次から物質生命理工学を学びはじめ、加えて多彩な分野の実習・演習を行う。3、4年次の専門分野は上述の3つのキーテーマの中に、「化学・応用化学系」「環境・生命系」「材料・分子科学系」の学問系統を設け、学生の関心に合わせ重点的に履修する教育課程を編成している。

機能創造理工学科は、人間・環境への支援を基盤とし、新しい物理現象の発見や応用の可能性を考え、そこから新しい機能の創造、創出を探究する学科である。物理学、数学などの理学と材料、デバイス、電子機器、エネルギー、機会システムなどの工学を融合的に学び、産業技術との調和ある発展を推進できる創造性豊かな人材を養成します。そのため、機械工学、電気・電子工学、物理学の3つの学問分野と「エネルギーの創出と利用」「物質の理解と材料・デバイスの創成」「ものづくりとシステムの創造」というキーテーマを結合し、幅広い分野に適応できる専門教育を行う。

学科科目としては、1年次に広範な基礎科学と科学技術への見識を身につけ、2年次からは「理工基礎科目」をベースに、主に物理学・機械工学・電気電子工学の基礎を学ぶ。併せて科学技術に関する英語習得にも注力する。その後、2年次の秋学期に6つのコースから専門を選択し、3年次から専門性の高い演習や実験などに進展し、4年次から各研究室に所属し、具体的なテーマの研究に取り組む教育課程を編成している。

情報理工学科は、「情報」を基盤として人間と社会を複合的により深く理解する能力、人間や社会が蓄積してきた知識・知恵・経験を発展できる創造力、そして誰もが安心して暮らせる未来を構築しうる能力を養成する。また、自然科学を基礎に人文・社会科学と連携した学際的視点を重視する。数学・物理・化学・生物・情報など理工学の基礎教育を徹底して行う一方、専門分野として「人間情報」「情報通信」「社会情報」「数理情報」をキーテーマとするカリキュラムを設けることで、理工融合の「複合知」に基づく幅広い分野に適応しつつ、将来の基盤を確立するための専門教育を行う。「複合知」を身につけることで安心して利用できるシステムを構築する人材を養成するとともに、科学技術英語教育により国際的に活躍できる科学者・技術者や、確かな基礎を身につけてそれを次世代に伝えていくことのできる教育者を養成する。

学科科目としては、学部共通の専門科目で理工学全般に関係する「基礎教育の徹底」を図り、学科の専門科目で「横断的で柔軟な教育」を目指す。3～4年次の学科専門科目群では、上述の4つのキーテーマから興味のある1つを選択し、選択以外の科目も履修可能と

なる。また、学生全員がプログラミング演習、電気・電子・デジタル回路実験、数学演習を行い、実習実験授業を通じて分野を横断する知識を獲得する教育課程を編成している。

本理工学部の教育・研究システムは、理学と工学を一体化して学ぶ「理工融合型」と同時に、文系学部と同じキャンパスで人間・環境支援の基礎教育を学べる「文理融合型」の側面ももっている。理系・文系の枠を越えて自在に思考することによって、多様化する現代社会が問いかける複雑な課題を、解決へ導く力を育むことを目指している。

3 学科の科目は相互に履修可能となっており、自身の基盤となる理工学分野について確固たる専門性を持ちながら、多様な分野を客観的に見つけ、文系も含めた関連分野を連携させていける幅広い教養＝「複合知」を身につけることを目指す。

科学技術の急速な発展、社会の多様化に適応する力を育むためには、知識の伝授だけではなく、創造性を開発する教育が必要となる。本理工学部では、機械工学、電気・電子工学、数学、物理、化学などの伝統的知識体系を活かしつつ、関連する学問領域を融合的に学ぶ 3 学科を設置し、幅広い見識を備えた人材を養成する。また、国際競争力のある科学者養成のため、英語教育にも力を入れており、そのカリキュラムを維持するための教員組織は下記「教員組織の変更内容」で述べているように十分備えている。収容定員の変更を行っても現状の教育課程で十分に対応可能であると考えている。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

理工学部の各学科は、少人数教育を徹底し、学生一人ひとりを親身にサポートする、例えば、履修科目の選択やどの専門分野を選ぶかという進路決定なども教員と相談しながら進めることができる。また、1、2 年次の必須科目を 3 学科共通で実施し、さらにクラス分けを行うことで、きめ細やかな指導を行う。教員とのコミュニケーションを重視し、実験や演習も充実させ基礎教育の徹底をはかっているが、教育課程を維持するための教員組織は下記「教員組織の変更内容」で述べているように十分備えている。なお、全ての学科の必修科目として 4 年次に「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」が課されているが、「卒業研究」は各自が研究テーマを定めて専任教員の指導と助言のもと研究を遂行し、その成果について研究報告を行い、その過程を通じて学生が研究分野の学識を深めることとなる。

学生定員の変更を行っても、各教員が卒業研究を指導する学生数は、収容定員変更前と同様に凡そ 4 人程度に抑えることができるため、教育方法及び履修指導方法の転換は行わない。

(ウ) 教員組織の変更内容

理工学部の各学科の教員数は、表 14 のとおりである。

表 1 4 理工学部各学科の教員数

学科名	教授	准教授	助教	合計
物質生命理工	23	8	2	33
機能創造理工	24	7	5	36
情報理工	17	9	3	29
合計	64	24	10	98

現在の理工学部各学科の教員数は、物質生命理工学科が 33 名、機能創造理工学科が 36 名、情報理工学科が 29 名の合計 98 名である。

収容定員変更後における大学設置基準で定められる教員数は、物質生命理工学科が 10 名、機能創造理工学科が 10 名、情報理工学科が 10 名となるが、収容定員変更後においても大学設置基準を満たす教員数を理工学部各学科は有している。

各学科の教員一人あたりの学生数（S/T 比）については、現行の入学定員と変更後の入学定員で比較すると、物質生命理工学科が 15.2 名から 16.6 名、機能創造理工学科が 13.9 名から 15.2 名、情報理工学科は 17.9 名から 18.8 名となる。学生数は増加するが、定員変更の影響はわずかなものであり、既存の教員組織で十分に対応できるものとする。

（エ）施設・設備の変更内容

①校地、②校舎、③図書館、④大学の設備については、神学部の「施設・設備の変更内容」で記載と同様であるが、理工学部としては次の設備の追加を行う。

近年の科学技術は、細分化、専門化されており理工学部の卒業生にはその専門分野における高度な知識と技術が求められている。一方で、学際的な視点も身につけなければならないため、理工学部は 3 学科共通で、自然科学の基礎的な分野である物理学、化学、生物学、情報科学の 4 つの分野の実験と演習からなる「理工基礎実験・演習」を 1 年次の必修科目としている。今般の収容定員増に伴い、実験で使用する機器を追加で準備するが、具体的にはフィンピペット、生物顕微鏡、ボックスタイプコンテナ、分析天秤、電子の比電荷測定器、直流電圧計、直流電流計、分光計を購入する。

以 上